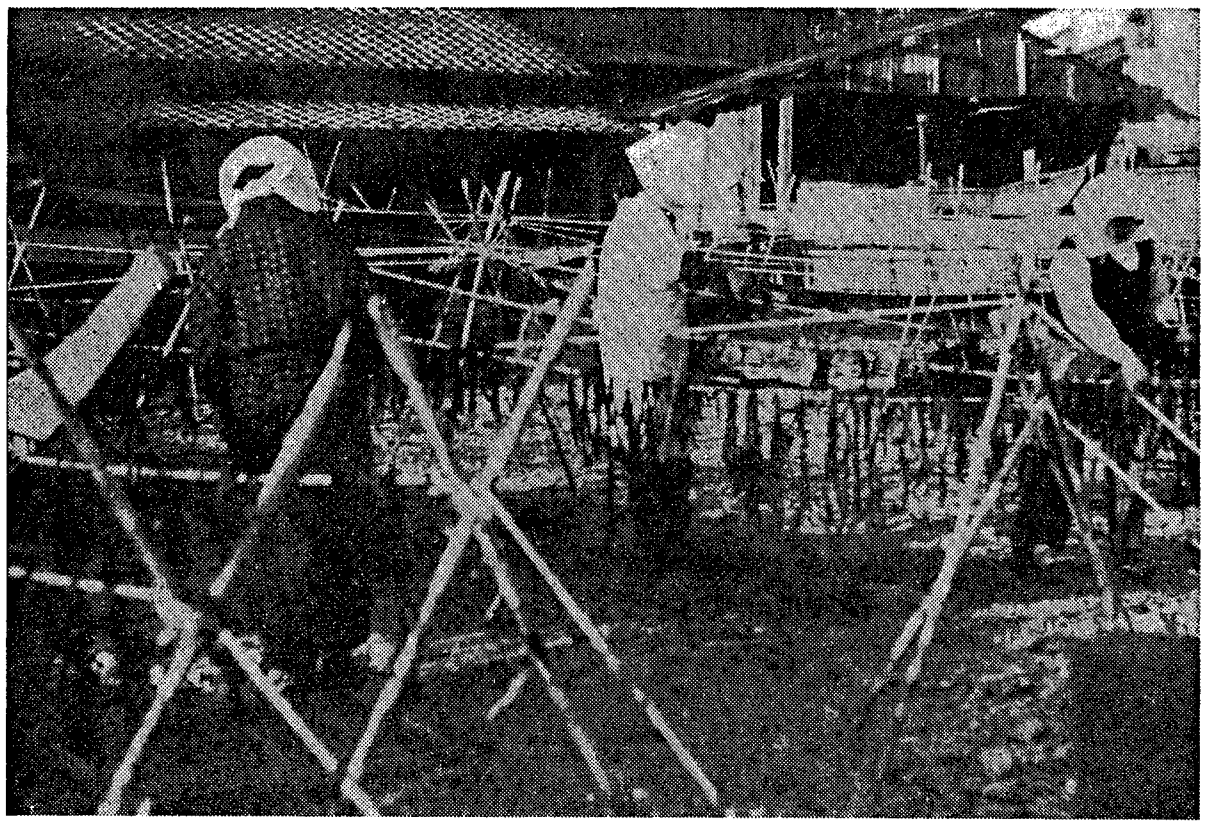


第廿二号昭和卅三年六月十五日発行  
毎月十五日一回発行 一部 十円  
昭和卅二年十月十八日 第三種郵便物認可

# 水稲

六 月



長  
印

兵 庫 県 漁 業 協 同 組 合 連 合 会

# 財団法人兵庫県水産業改良普及協会の設立について

## 財団法人 兵庫県水産業改良普及協会

### 一、協会設立の趣旨

現今の沿岸漁業不振の打開策と致しましては、浅海増殖事業を中心とする資源の育成、漁具、漁法の改良による経営の安定、加工技術の向上による魚価の安定等を基礎として、これらが漁協を中心とする漁家経営の改善、生活改善にまで結びつかなければならぬと存じます。

これらの事はその性質上、県当局の施策と相まって吾々漁民が自らの手によって積極的に推進しなくては其の成果を充分に發揮する事はできません。

昨年水産振興基金審議会におきまして、この問題がとりあげられ基金の残額によってこの目的にそう、財団法人を設立する様要請されましたところ、幸いこのたび県におかれましてこの趣旨に御賛同下さりまして、水産振興基金より、当協

会の事業育成強化のために御寄附願

うことになりましたので、この基金を基として、漁民が自ら行わんとする改良普及事業等を推進援助する母体として、当協会を設立し本県漁民の経済的、社会的地位の向上を目的とするのであります。

過般農林省に法人設立の許可申請していたしましたところ、去る五月二十八日付をもって、許可された次第であります。

### 二、協会運営の方法

当協会の運営について概略申しますとこの協会の資産は、基本財産と運用財産で、それらの資産から生ずる、果実(利息) 寄附金品、その他事業収入等によって、この協会の経費を捻出します。

又協会の業務の執行については、役員会と評議員会を組織します。

### 三、協会の事業

イ、水産業技術改良普及を助長するための事業及び援助。

ロ、経営改善及び生活改善を助長するための事業。

ハ、改良普及事業に関する各種集会等の開催。

ニ、新漁場への進出を助長するための事業。

ホ、内水面増殖を推進するために必要な事業。

ヘ、参考文献の収集。

ト、その他この会の目的を達成するために必要な事業。

以上概略申しました様な事業を計画し兵庫県における漁民の自主的な、水産業改良普及を促進し今後一層水産業の発展に資せしめんとするものであります。

尙協会の事務所は

神戸市兵庫区新在家町一三三  
県立水産会館(兵庫県) 漁連内



### 目次

財団法人兵庫水産業

改良普及協会設立について

水産業改良普及協会……………1

訪米旅行こぼれ話 (其の四)

水産課長 森沢 基吉……………2

対馬暖流

うきね鳥……………4

本県中型機船底曳網漁業の変遷

但馬海区漁調委事務局長

松宮 正雄……………6

水産資源愛護映画会の

開催について……………8

わかめ・てんぐさの

増殖座談会……………8

## 訪米旅行こぼれ話

(其の四)

兵庫県水産課長 森 澤 基 吉

## 銀行の窓口有感心する

我々の旅費やら日当は約半月毎にワシントンの本部から郵送されてくる政府発行の小切手で支払われる。

この小切手は仲々権威のある代物でホテルでも大きい商店でも全国何所へ行ってもこれで勘定をすることが出来るが、小切手で飯を食ったり、ビールを一杯というわけにも参らぬので、このラブレターが来る毎に銀行へ現金と引換に行くことが忙しい旅程中の極めて重要な業務であった。印鑑と言うものがない国は便利である。小切手の裏にサインをして窓口で差出すだけで万事オーケーである。身分証明の代りに旅券の提示を求められる場合もあるが、二分と待たぬ間に換金が出来る。能率万能の国乍ら窓口業務の迅速なこと真に一驚に値する。

我が国の銀行ではどんなにサービス

の良い場合でもこうは参らぬ。差出の窓口で小切手の受取りに真鍮やセロイドの番号札をもらって暫くは呼出しのあるまで待機の姿勢というのが定石のようだ。旅行中軍資金受領のために数種類の銀行を訪問したが、都会地の大銀行でも片田舎のちっぽけな銀行支店でもこのスピード、サービスには変りがなかった。何故こんなに要領が良いのだろうかと研究して見た結論を御披露しよう。

我が国の銀行では差出された小切手類は窓口の係から係長、課長、店長等のデスクを一巡して決裁印を押された上で支払嬢の窓口へと送られ、始めて「〇〇番さん」と呼出しがかかる。米国の銀行は全然ちがう。窓口の行員が全責任を持っている。客の出す小切手を点検しサインを照合して異状がなければ直に札束をは

じて即座に現金を支払う。書類の堂々めくりも上司の決裁もないから早いのがあたり前である。恐らく窓口には相当経験のあるベテランを配置しているに違いないが、部長でも課長でも係長でもなさそうである。人ごと乍ら間違や事故がおきたらどうするのだろうかと思いつたが、流行に保険制度の発所している御国柄だけあって万事保険で解決をしている。

銀行は窓口業務に従事する行員にチャント保険をかけて居る。不正やら事故で銀行に損失をかけるようなケースが発生した場合保険会社は直に銀行に対して損害てん保を行うから普段から保険料さえ払っておけば、窓口の不始末による損失は全然ない。事故の種類によって色々のケースもあるが、後は保険会社と窓口の銀行員との関係だけで銀行は涼しい顔である。もし窓口の使いこみや不正の事故が発生したとすれば保険会社は契約のはい内て事故額を銀行に支払った後その行員個人からとる可きものはどしどし回収すると言ふことになる。

勿論窓口サービスはその企業の看板だから身元のしっかりした優秀な経験者を充当しているのだろう

が、この保険制度の活用と相俟って真に遺憾なく「待たさぬサービス」に徹していることは気が良い。お役所でも会社でも企画面などの仕事は別として、民衆やお客に日常接触する部署にはこの式の責任態勢をとられる研究がもっと真剣になされても良さそうだ。

ミシガン州の首都ランシングへの途次青果物の生産地市場で名高いベントン・ハーバーと言うミシガン湖畔の町の国民貯蓄銀行を参観する機会を持ったが、設備もすべて客本位で待合室などはすばらしいソファアが置いてあり子供のための休み場までが窓口のそばに出来て居り、ゆっくりにお客がくつろげるよう設計面に苦心の跡が見られたのが特に印象に残っている。この銀行は主に住宅金融を取扱う金融機関で地下室へも案内されたが、そこにはモデル住宅の台所や居住室の美しい展示場が出来て居りジュースやお茶の無料サービスもありお客の建築意欲を自然とそそるような仕組になっているのは、お役所式のいかめしい銀行の空気になれっ子になって居る我々をすっかり感心させた。中央官庁を筆頭に「国民への奉仕」を最大モットーとする国らしい銀行のあり方である。

## 日系のまぐろ船主と語る

ロスアンゼルス港の漁港区はターミナル・アイランドにあるサン・ピドロで米太平洋岸の海洋漁業の一大基地として名高いところ。ロス滞在中の一日ここに日系のまぐろ船主鈴木氏をたづねた。

同氏は過去四十年間ここで漁業を経営している一世で一五〇屯の持船「デリマ」号の上で遠来の我々を快く迎え色々と漁業の事情やら苦心談をきかせて呉れた。この人のやっている主な漁業は米式中着によるまぐろ、いわし、あじ、さば漁等でまぐろ以外は夕方に出て朝帰る沿岸の夜たき漁業、まぐろは本まぐろ、きわだを主としメキシコまで出かける。一航海は約一カ月が普通であるという。水揚は一航海でまぐろが二万七千ドル、いわし類が八千二百ドルと言うから小型の遠洋漁船としては比較的良く、特に近海でやるいわし類の中着は仲々有利な企業のようにである。乗組員は十二人で全部日本人を使用しているが、歩分けは水揚から四十二パーセントを船主がとり残りから油代、食費を差し引いて乗子に平等に分配している。職種による差別はなく全くの均等制である点はアメ

リカらしいが固定給はない。これで乗組員の手間の純手取は六千ドル程度(月五百ドル十八万円)になると言うから仲々の収入である。勿論物価は我国の約三倍とふんで置く必要はあるが。……

戦前カリフォルニア州の漁業経営は多くの日系によって握られ隆々たる気焔をあげて居たが現在はサンピドロを基地とするものは僅か四隻を残すのみでイタリア人やニューゴースラビア人の船主にとって代ってしまった。これらのは真に心淋しい限りである。これらの人種は昔、日系船主が乗組として雇用していた連中で戦時中日本人が抑留されていた間にのして来たものだという話をきいた。面白いことに漁業の特殊性かとも思うがアメリカ人の船主は割に少いようであり、乗るは船主と同一国籍のもので揃えている。チームワークの大切な巾着網の操業には雑人種の世界アメリカでも混成部隊は工合が悪いのであろう。サンピドロにはこれら海洋漁業の船主の協同組合があり主な事業として漁網購入のあつせんを行っている。燃油は船主がめいめい別の会社から買入れる。協同組合運営の経費は漁獲高に依りて徴収される仕組で一トン当り一ドルとなつて

いる。乗組員は別個に組合を組織していることは我国のまぐろ漁業等における船主組合、船員組合と同じ行き方であるが、乗子の組合は仲々規模が大きくメキシコ国境に近いサン・デイエゴにアメリカまぐろ船協会と称するユニオンを持っている。この組織の勢力はどえらいもので乗組員に対して絶対の権限を持って居り各船主の意志に反して船員を動かすことも出来れば、一方的に水揚する漁港や缶詰原料として漁獲物を販売する加工会社を指定することも出来るらしく船主もこれには勝てぬようだ。

日本まぐろの輸入問題はいつも新聞をにぎわす話題であるが、鈴木氏の言によると日本から来る缶詰原料の冷凍まぐろはアメリカの漁夫が獲るものより漁獲後の保蔵方法が完備している関係から遙に鮮度が良く缶詰会社も歓迎をしているのが事実だそうである。ただ船主や乗組員の組合からの強い反対によって日本まぐろの排斥問題が起っているので品質では彼等はどうも太刀うち出来るものではない。まぐろ缶詰業者の中特にユダヤ系のもは仲々商売があくどいようで、何かと輸入まぐろの品質に難くせをつけて買いたたく傾向

があるが、地元のカリフォルニアの漁船の分については船員組合の力がつよいからこれが出来ないもので、自然日本からの良質であつて然もケチのつけ易い原料を買おうとする。輸入原料が工場に入ると地元の漁船が入港しても工場の処理能力の関係で地元まぐろのはけるのが遅くなり勝ちで船員組合から文句が出る。日本は決して原料まぐろの無茶なダンピングをやっているわけでもないのに、とやかくとこういう関係からアメリカの生産者の生活をおびやかす元兇として日本まぐろがやり玉にあげられるわけである。鈴木氏は「自分等まぐろ船主にとって輸入品は強力な競争相手ではあるが、日本人としての立場からもっと有利な価格で日本からの輸出がどしどしのびることを期待したい。輸出まぐろは中間のブローカーにとられる利が多すぎて日本の漁夫達の手取りが少いようであるのは真に残念だ」と結論した。

## ニューヨークの盛り場

世界のビジネス・センター、ニューヨークの盛り場はブロードウェイである。その中心に写真やら小説で御馴染の広場(と言っても広場らしいものではないが)タイムス・スク

エアーがある。偶然にこの場所まで歩いて十分間位で行ける恰好の地に宿をとったお蔭で短い滞在乍ら夜のニューヨークの気分を十分に満喫することが出来た。

ここは夜と昼の区別がない。一日中、一晚中うごき通しの街というのがふさわしい言葉だ。むしろ夜の方が鼓動がはげしい。ニューヨークは余程御多忙と見えて夕方から開店して朝までやっている美容院や散髪屋などが方々目につく。カフェや飲み屋の夜どおし屋は我国でも戦前は珍しくなかったから、言わずもがなである。映画館も殆どオールナイトで面白いことに午後六時、九時、十二時、午前三時と時間のおそくなるに従って入場料金が高くなる。真夜中が夜のゴールデン・アワーと言うわけだ。結構多くの一流館が軒をならべてやっているところを見ると、夜明し族が沢山存在するものと見える。

週末、とくに金曜日の夜のにぎわいは格別で紳士淑女、老若男女が着飾ってのし歩いている。タイムス・スクエアの世界的名物は然し何と言ってもその恐しく大規模な電飾と巾の広い滝を流した任組の飲料コ

カ・コーラの横綱から、ぶかりぶかりと煙の吐き出す煙草キヤメルの大関クラス、その他各種各様の目を奪うばかりの電飾が電気技術とデザイナーの粋をこらしてこの一角にきそい合っているのは全くアメリカらしい風景である。銀座も仲々立派なのが最近は出来ているが凝り方が段違いのようだ。

夜の街頭を歩いていると我々を旅行者と見かけてか、ちよいちよい引きにぶつかると。男の引き手だが女の所へ案内するのではなさそうで面白い映画があるとか変わった踊りを見ないかとか言ったたぐいである。私もブロード・ウェイの雑踏の中と或るレストランで数回こうい御仁に袖をひっぱられた。如何にもお上りさんらしい顔をしていたのかも知れない。ニューヨークでは現在ストリップ・シヨウの実演はどんな理由か知らないが御法度で公開されているのはその映画だけである。客引に仁義をたてる程のふところの余裕もなかったので最終段階まで見とどけて居らんから確言は致しかねるが、恐らく各種の地下に潜ったヌード・シヨウがあるのだろう。

盛り場ではないが麗天楼の上から見たニューヨークの夜景は天下一品

で、世界的名所たるにふさわしい。紅、青、黄、緑等各種の大小の寶石を散りばめた夢の国が足もとから遙か地平の彼方までおしひろがっている光景は文句なしに素晴らしい。埠頭の自由の女神も海の上に浮び上り、

この塔の屋上で不意に肩をたたかれ日本語で初休面の青年から話しかけられた。神戸出身のK氏で目下カナダに留学中、休暇を得てアメリカ見物に来たと言う。うすら寒い十月の夜風にふかれ乍ら暫し神戸の話などをして過したエムパイア・ステートのビルの一とときはふと淡い日本への郷愁を感じさせた。

## 対馬暖流

うきね鳥

### 第二鵬丸

人生五十年ということばは少し訂正されてもよいようであるが、順境にある少数の人を除いて多くの人たちはこの年頃になって、仕事らしい仕事も完成せず無為にして老いてゆくことに一種のあせりを感じることに思う。私のような無能の人間は特にこの感を深くしたものだ。日はすでに山の端にかかっているのに道は遠い、残された生は短く目標は遙かだ。そこでついあせってはへまもやるといふことになる。

とところが五十年の関門を過ぎてみると、かへってあきらめと落ちつきを得た。人の一代は春陽に芽を吹いて秋風に散ってゆく木の葉のようなものだ。東の間の命であるけれども、あとにつづくものがある。自分の血脈は子の代孫の代と生きて連綿とつづくであろう。葉は落ちてもたくましい木と枝とは生きている。われわれは一枚の木の葉よりもっと短く、且に咲いて夕に凋む花であっても、あとに実を結び種子をのこすことができたらば、それで安心して成仏できるのではないか。この

考え方の上に立つのでなければ、死は自己のすべての終末であると思つたらやりきれないし、又一生の苦心経営のあとは泡沫のようなものだ。

こうなれば、じっくりと腰をおちつけてめぐり来る時節を待とう。人によつたら「おまへの氣永さにはあされる。何才まで生きるつもりか」といぶかるかも知れんが。

船もほしいが、その用途構造など今では見当付かぬ。そこでT君の紹介によつて松下氏の持船を秋冬の漁季中借りて使うことにした。八月の末の暑い日に松下氏を訪れて予期せぬ好意と義侠心とが、この船も持たぬ一介の老漁夫を待っていてくれた事を知った。第二鵬丸はさる巾着船団にすでに貸してあったもので、これを取り返してこちらへ廻してくれたいとの事である。傭船料はいくらにしてくれるかと訊くと、

「わしも対馬の土地で一ト苦勞したこともある。できるだけの協力をしよう。大漁したらチャーター料をもらうし、漁がなかったらもらわんでもよい」こういって文字通りの太い腹をつき出して見せた。この答には私も却って当惑した。初対面の人間に、僅か一、二時間話してみただけの間柄で、造り立ての新造船をポン

と提供し、

「お使いなさい、乗ってゆきなさい」という爽やかな態度は、今時の世の中でこれは一つの驚異だと思つた。さすが島飼村の親分といわれるだけの度量と貫録を十分具へていると敬服した。

周防灘でひどい雷雨に逢い、船首も見えぬような雨に加えて船の周回に間断なく落雷するので機関をとめて流しておき、船首の甲板へもぐりこんで雷雨の通過を待つというような事もあったが、無事広い海へ乗り出した。夏の日本海は、うねりもななく池のように静かである。ハセダ自慢のエンジンも好調に快適な旅だ。

右に沖の島を望む外、島影一つ見えぬ「天空海淵」の世界をばく進している。たこの頭のような形で水平線に太陽が昇りだすと、海は紺碧に輝き、空の青さもにわかには薄れたような気がする。「めしが出来てきたが、一つ刺身でもほしいな」こう言つて擬似釣を投入すると、忽ちよこわが五、六本立てつづけに釣れた。塩も氷もためので余計に釣つても仕方がないのでやめたが、さて釣りをも目的に出漁しても、こううまく魚群に出くわすことが少ないのだから皮肉なものだ。それに出漁したときは

油代いくら、漁獲高何円などという考が念頭から去らぬので、こんな時に味うのんびりした気分というものがない。涼しい朝風に吹かれながら大海の上での食事というものは陸で味えぬうまさがある。或氣のおけぬ仲の人から

「君はまだ下らぬ漁師などしているのか」と揶揄されたことがある。私は破顔一笑

「こじきは三日やたらやめられんというが漁師は三月やたらやめられんのだ」これは別に捨て鉢の口上ではない。正直な心境をのべたまでの事である。

濃いエメラルドの海に船を浮べて、仰いでは大陸の山々を望み、俯しては洋々たる対馬海流の澎湃の声を聞く。などいうと、こっけいな美文調になってくるが、浩然の氣というのはこんな所にあるのではないか。この三昧境を彼等に説いてもどうせむだであろう。

### 島を訪う人々

淡路の鮮魚船K丸が入港、その船主が訪ねてきた。彼はいかに自分の商売が盛んであるかを説いた後雑談数刻、私も故郷のよもやま話をなつかしく聞いた。彼は最後に同郷人の

心安さに打ちとけ過ぎた結果か、あらぬか、

「お前らは、三年もやっていて芽が出んようならあかん、ここで小漁なんかやっても見込みないぞ」と親切をこめて、さとうように言つた。わるいことはいわん、出なおせというわけだ。私はいいかげんにあしらうつもりで、

「ここがあかん時は北海道へ行くんや」

「北海道もあかんぞ、もう行きつまつとる」

「そんなら南米へ行こう」  
さすがの彼も、南米もあかんといえず冷笑をうかべながら、あきれ顔で私を見ていたが、そこで長広舌を打ち切った。彼の目には見こみある仕事は商売以外にないようである。しかしこの土地へ来て、私はこれだけの直言直諫を呈してくれた親切な人に二度と出逢つたことがない。

或初夏の一日神戸新聞社の真鍋記者が訪ねて来た。福岡の海上保安部の特別な計らいで特に船を一隻仕立ててくれて行程をのばすことができただので西対馬へも来ることでできたとの事である。果からも報道関係からもこれまで不便な当地を訪ねてく

れた人はなかった。真鍋君がはじめてであるので私は感激して迎えた。それにこの人は早大文科出のインテリで、この種のひと話す機会をもたなかった私は多年の知己にめぐり逢ったようなよろこびを感じた。知識人の社会にあっては、野人としての私のはげしい抵抗をかんじ、野人仲間には伍しては、私のインテリの一面が堪えがたい不満とさびしさを覚える。しよせん、どこで暮らしてもエトランゼエの悲哀から抜け出せぬ宿命を感じさせられる。

「電灯もつき、ラジオもうなりだした。これも住みにくい土地になってきたものだ」とつぶやいて人々を不審がらせた私ではあったが、まだまだ凡俗のアカとアクとをたくさん身につけた自分であることを悟るのである。

塩崎出漁協会長の来訪を芦ヶ浦で二度迎えた。辺幅をかざらず気取らず、アイゼンハワーに似た微笑をかべて故郷のことを話すこの人の素朴な風格は県の議政壇でも一つの魅力であつたらう。残念ながら漁のあまりなかつた時に来られたので、我々の敢闘ぶりをお目にかけることはできなかった。せめて何の漁でも華々しい成績の上つてゐる日に

又来られることを願つてやまない。

### 到る処青い海あり

長男通の高校進学がわが家の課題となつてきた。事業不振の底にあつても、このことをなおざりにはしたくない。高校も大学も、今は就職の手段としてのみ価値があるというように、学校教育に不信である私は、本人がその例外たるべき学問に志があるとか、特殊の才能があるとかいう特異な存在でもないし、普通以上に勉強ざらいでもあるので、当人と同じくらいの程度に、進学熱は低調であつた。

けれども、学ぶものがどれほどの価値があるかということよりも私は若い年代に学校生活というものを経験することが、はかり知れぬ收穫となることを知っている。又学校を出たか否かによって社会的処遇がいかに冷刻に差別されるかを身にしみて知っている。進まぬ当人を引き立てても進学させたいと思ふこともある。しかし原則として自宅から通学させたい。寮に入れたり、下宿させたりして環境のことを心配しながら、あまり熱もない子どもを是非共高校へやらねばならんとは考えなかつた。そこで厳原高校を志望する

として、この進学中心の計画を立てた。つまり厳原かその近郊の然るべき土地へ転居して漁業もその土地でやれる仕事に転換するというのである。これによって今の家計には無理であるところの寮生活や下宿住いのための仕送りという難件も解決できることになる。

かねて候補基地であつた阿須の地を取上げ、この地で定置網、建網などをやることを考えた。小規模の漁業では何をやっても成績は上りにくいものだが、そのくせ、どこで何をやっても、少くとも対馬の地では、

食うだけのことはできるといふのが現状である。

海の容るること廣大無辺であることをいわば、百姓の生れない古い世代から、人間は魚をとつて生きていく。思う土地へ移つて行つて、特定の仕事をのぞけば、何漁をやつてもその日から食つてゆける。

私は又しても漁師礼讃になつてきたようだ。私は数回にわたつて阿須の地をおとづれて、つぶさに諸般の状況を観察した。

(筆者は淡路島津名町佐野の出身、現在長崎県対馬豊玉村小網に在住)

## 本県中型機船底曳網漁業の変遷(一)

但馬海区漁調委事務局長 松宮正雄

県下の主幹漁業である中型機船底曳網漁業は戦時中陸海軍の徴傭により優秀漁船の大部分を失つたが業者のたゆまざる生産意欲によつて終戦十余年を経過した今日、戦前をしのぐ復興をみたことは誠に慶賀にたえない次第であります。あの戦後の資材不足を克服しながら我々県民各位に蛋白を補給してくれた本漁業の沿

革についての記録がなんらないことに気がつき執務の余暇を利用して資料をまとめ、まとめたもので紙面の都合もあり概略にはしりすぎますが何等かの参考になれば幸と存じます。

以東機船底曳網漁業は沿岸漁業から派生し、これと密接不可分の関係

を保ちながら発達したものであります。本県の機船底曳網漁業も同じ経過をたどって今日の隆昌を遂げたものであります。記録によりますと

明治四四年城崎郡香住町下浜の浜本治郎市氏が十二馬力石油発動機船開運丸を建造し機船による底曳網漁業の試験をしたのを始めとし、その後発動機船の発達にともない手繰網に発動機船の応用が創意され大正三年には同じく香住町の村瀬宇蔵氏が鳥

取県より十屯十四馬力の漁船を購入して機船による手繰網漁業を試みしました。その後次第に機船による手繰網漁業が普及するようになりました。ついで大正六年島根県において岩本千代馬氏による動力式捲揚機が考案されるにおよんで以来、これを導入して漁獲率の増大をはかったので隻数も年を追って増加し、大正十三年には一五〇六屯二五馬力内外のもの

を主力として六〇隻を算するまでに達して本漁業の黄金時代を呈しました。

乱獲期

大正の中末期にかけ本漁業の発展は著しく、一方この当時山陰本線の開通による漁獲物の出荷区域の拡大と併せ漸次船型は大型化し、昭和三年当時には一八〇九屯三〇〇四〇馬

力となり、漁場も沖合に移り、大正九年には隠岐近海、昭和初期には島根県温泉津沖、山口県見島沖に及び、昭和五〇六年には遠く朝鮮東岸まで出漁を試みる者もあり、多大の成績を収めました。然し全国的なめざましい発達により沿岸漁業との紛争が表面化してきたので、大正十年

九月には農商務省は、取締規則を制定して全国的に統一ある禁止区域を設定し同十三年十月には東経一三〇度を境とする以東以西の行政区分が明らかになりました。本県の漁業も昭和五〇六年には乱獲の兆候を示し、いきおい沿岸に接迎して操業することとなり沿岸漁民との対立もあり、かつ一般経済界の不況と相まって新漁場の開拓が痛感されるに至りました。

沿海州公海漁場への出漁 昭和七年兵庫県水産試験場の但馬丸によってソ連沿海州沖の漁場が開拓されました。以来本県の漁船は日本海沿岸の各府県に率先して多大の危険を冒しながら昭和八年より同十六年まで国際情勢の推移により出漁不能に至るまで毎年春期(三月〜五月)秋期(九月〜十二月)の二期に亘り出漁しカレイ、タラ、メンタ

イ、カニ、を主たる漁獲物として好成績を収めました。この出漁はこれ自体経済的に成功であったと共に既存内地漁場の緩和にも非常に貢献しました。

当時の経緯については次のようです。 昭和八年五月 試験操業の名の下に農林省より許可を受

同 八年九月 一九屯の漁船五隻が初めて出漁し一日で満船する好成績を収め同年中に五航海を無事に終了。 前年の好成績に刺激されて他県よりの出願者が続出したので農林省は三〇屯以上に限り六〇統の枠を決定。

同 十年三月 漁場の遠隔に併い陸船間の連絡、海難防

同 十六年 国際情勢の悪化に併い出漁不能となり以降内地漁場のみに至る。

同 十六年 止の必要上香住、口佐津、竹野、港の四漁業組合が共同して香住町に香住漁業無線局を開設

御投稿お願い 組合員の皆様方の機関紙として発足しました「拓水」も各位の御協力によりまして本号で第二十二号になりました。現今沿岸漁業多難の折、あらゆる面より皆様方の御意見を發表していただきお互に参考にして難時打開の一端にでもなればと思ひますので、御忌憚のない御意見をどしどし御投稿下さいますようお願い申し上げます。

御投稿お願い

御投稿お願い 組合員の皆様方の機関紙として発足しました「拓水」も各位の御協力によりまして本号で第二十二号になりました。現今沿岸漁業多難の折、あらゆる面より皆様方の御意見を發表していただきお互に参考にして難時打開の一端にでもなればと思ひますので、御忌憚のない御意見をどしどし御投稿下さいますようお願い申し上げます。



# 水産資源愛護映画会 の開催について

去る五月一日から実施中の第三回

水産資源保護月間にあたり、本県の記念行事の一環として、このたび兵庫農林部並びに兵庫県漁業協同組合連合会の共催により左記のとおり映画会を開催する運びとなりましたので最寄の会場においてなるべく多数御観覧下さい。

- 一、開催期日 別表のとおり
- 二、開催場所 " "
- 三、上映時間 日没後より約三時間
- 四、上映映画

1、カラースライド

「水産資源愛護」 県水産課製作

「わかめの増殖」 同 右

2、教育映画

「野口英世の少年時代」

六月十六日から二十日まで

「お姉さんと一緒」

六月二十三日から二十八日まで

3、劇映画

「海賊奉行」 主演 片岡千恵蔵

## わかめ・てんぐさの増殖座談会

水産資源保護運動月間の記念行事の一環として六月九日午後一時から水産会館四階小会議室において、わかめ、てんぐさの増殖に関する講演と座談会が開催された。

講演は神戸大学理学部生物学教室の広瀬教授、演題 「わかめ、てんぐさの増殖について」  
 参加者

- 一、水産課長挨拶
- 二、講演 神戸大学広瀬教授
- 三、カラースライド 「わかめの増殖」
- 四、座談会 司会 水試前田養殖課長
- 五、昭和三十三年度浅海増殖計画について 水産課生産係 田寺技師
- 六、水試三上場長挨拶（閉会の辞） 午後四時三〇分大盛況の裡に閉会。

開催月日	開催地		会場
	市町村名	地元組合名	
六月十六日	豊岡市	津居山港	津居山小学校
十七日	城崎郡竹野町	竹野浜	竹野浜漁業協同組合
十八日	城崎郡香住町	香住町	香住町漁業協同組合
十九日	美方郡浜坂町	浜坂	浜坂町公会堂
二十日	同 右	居組	居組漁業協同組合
二十三日	津名郡淡路町	釜口	釜口小学校
二十四日	三原郡西淡町	丸山	阿那賀小学校丸山分校
二十五日	津名郡一宮町	江井	江井小学校
二十六日	明石市	西二見	西二見漁協組合北側広場
二十七日	加古郡阿閩村	古宮 本荘	阿閩小学校講堂
二十八日	揖保郡御津町	室津	室津小学校

われらの漁民銀行

# 兵庫県信用漁業協同組合連合会

会 長 島 田 文 治 郎

本 所 兵庫県立水産会館内 直通電話⑥0193  
但馬支所 香住町字中浜頭 香住125

購 買 品 は 漁 連 で

# 兵庫県内海漁業協同組合連合会

会 長 三 浦 清 太 郎

本 部 兵庫県立水産会館内 直通電話⑤3424—5  
明石油槽所 明石市船町 明石3207  
富島油槽所 北淡町富島 富島 66  
飯屋出張所 淡路町飯屋 飯屋 59

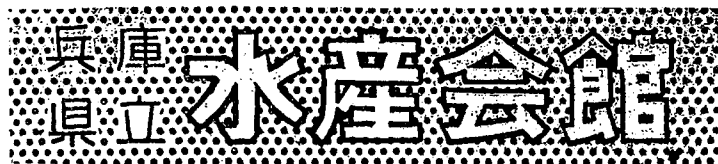
購 買 品 は 系 統 利 用

# 但馬漁業協同組合連合会

会 長 西 上 重 弐

城崎郡香住町香住 電話香住154

神戸市兵庫区  
新在家町



電話⑤8301(事務所)

電話⑤9563(宿泊所)

発行所 神戸市兵庫区新在家町 123 兵庫県立水産会館内 兵庫県漁業協同組合連合会  
発行人 三浦清太郎